

「業務改善運動報告書」

■ 提案者（改善者）名

作成日：2022/11/11

所属	所属名	こころの医療センター	グループ名	ぱひゅーむ
	セクション名	感染対策室	人数	4

■ 提案（改善）内容

提案（改善）の件名	【タイトル：表題】 精神科病院における新型コロナウイルスの感染対策の取り組み	テーマ区分 1 医療の質の向上 2 患者サービスの向上 3 経営改善（業務の効率化） 4 職場環境の改善 5 その他 QC活動の取組 ○ あり × なし
	【サブタイトル：副題】 クラスターを発生させないために	
概要	精神科病院は閉鎖的環境や患者が感染対策への協力が得られにくいことから、感染が持ち込まれると容易にクラスターが発生に繋がるという特徴がある。そこで「持ち込まない」「拡げない」感染対策を徹底して行うことで、クラスターの発生を防ぐことができた。	
現状と課題 （改善前）	患者は、感染対策の協力が得られにくく、マスクの着用や手指衛生など行えない患者も多くいた。また、職員も感染症患者が少なく、感染経路別感染対策や個人防護具の着脱方法の知識など不安を訴える職員も多くいた。そのような状況下で、患者・職員からの感染症の持ち込みを防ぎながら、新型コロナウイルス患者を受け入れ感染拡大を防げるよう業務改善を行う必要があった。	
改善策（改善後）	1. 職員からの「持ち込まない」感染対策は、感染報告は窓口を感染対策室に統一し、オンコールで指導を継続した。また、職員の休憩室（食事）の場所、感染家族を持つ職員の食事場所に誘導した。 2. 患者の「持ち込まない」感染対策は、ポスターの掲示、受診時の発熱や行動歴の申告の徹底、感染が疑われる患者のトリアージ対応、流行状況に応じた電話再診、修正型電気療法を受ける患者と入院患者のスクリーニング検査を実施した。 3. 「拡げない」感染対策は、入院患者へのマスクの供与、感染疑いのある患者の抗原定性検査の実施とコホートを実施。職員への教育として、病棟ごとにゾーニング指導を毎年1回、リンクナース中心に全部署個人防護具の着脱指導を毎年実施した。 4. 院内発生時には、病棟閉鎖やゾーニングを行い、職員も抗原検査を実施しながら勤務した。 5. 他医療機関からの患者受け入れ対応については、ゾーニングや個人防護具の着脱、リネンの取り扱い、ゴミの出し方、清掃方法、手指衛生の指導の動画を作成し、いつでも学習できるようにした。	
改善の効果	令和5年1月～12月院内発生患3名、院外発生患者受け入れ1名、職員委託職員の発生40名、職員委託職員の家族の発生39名であったが、クラスター発生はなかった。新型コロナウイルスに患者1名がかかると個人防護具代が10日間で510,250円、病棟閉鎖にかかる費用は1,703,848円の経済損失が生じる。クラスターが発生しなかったことは、経済的利益にも繋がった。 【その他：以下の点について記載可能な場合は記載願います】 経費節減： 1. 新型コロナウイルス患者発生に伴う個人防護具代 手袋代7.3円/回、サージカルマスク6.96円/枚、N95マスク175円/枚 フェイスシールド225円/枚、プラスチックエプロン50円/枚 合計510.25円/回X10回 1日5102.5円/日X10日間510,250円/人 2. 病棟閉鎖にかかる費用（13日間） PCR代152件988,460円、抗原検査代294回459,690円、 サージカルマスク13,781円、フェイスシールド37,125円、 プラスチックエプロン31,900円、プラスチック手袋36,537円、 アイガード57,222円ヒビスコール消毒液30,184円 合計1,703,848	

	時間節約	:	
	経済効果	:	
	質の向上	:	A 患者や家族から大きな反響があった B 患者や家族の満足度がかなり向上した C 患者や家族の満足度が向上した
院外への発表等 ○院外へ発表等をした場合は記載してください ○予定を含む	発表先	:	自治体病院学会
	評価実績	:	
該当項目	テーマ区分		Q C 活動の取組
	1		改善の効果:質の向上 B

院内発生時の対応

